

我が署の増収対策

付知営林署 業務課 生産係 亀井盛孝

1 はじめに

付知営林署は、古き時代より木曾ヒノキをはじめとする良材の産地として名を馳せており、各地の有名寺院や城閣等の材料として伐採搬出されてきました。しかし、近年になって木曾ヒノキ資源の枯渇にともなう伐採量の減少や、伐採地の奥地化による材質の低下、木材価格の低迷等から林産物販売による収入の確保が非常に厳しい状況となってきました。

2 内 容

当署では、毎月初めの定例出署日において販売対策会議を開催し、当月及び翌月の生産・販売計画、進行状況等を検討していますが、年度当初の対策会議において、経常の販売計画では予定した収入を確保することが困難であるとの見通しから、新規の収入を期待し得る方策の検討を行ないました。

その中の1つとして、「宝マップ」の活用による収入の拡大について検討を行ない、この中の加子母裏木曾国有林4ろ林小班にあるケヤキを伐採搬出できないか検討することとしました。

付知のケヤキは、木曾ヒノキほど有名ではありませんが、付知町の木材業者や銘木を扱う業者の間では、銘木としての価値が認められています。

ケヤキが生育している箇所は、西股森林事務所部内、西股本谷支流牛首谷の左岸、天サワラ、モミ、ミズナラ、トチ等の天然林内であり、搬出方法、集材架線・盤台の位置等を検討し、支障木を出さないで集材出来る範囲で、という条件において調査を行うこととしました。

搬出するための問題点は次のとおりであり、これらについて対策の検討を行ないました。

- (1) 第一次施業管理計画において伐採指定がないこと。
- (2) 臨時的な事業であり、直ようでは実行できないこと。
- (3) 伐採・搬出をどのように行うのか。
- (4) 保安林内であることから伐採協議の手続きを行うこと。
- (5) 銘木であることから販売方法をどうするか。

検討内容

(1) について

支局計画課と調整する中で、第一次施業管理計画の変更を行うこととし、生産群の見直しと伐採箇所の変更を上申し承認を受けた。

(2) について

直よう労務は、年間の生産計画に従って就労しており、余剰労務は考えられないことから、素材生産一貫請負による実行とし、請負経費について販売課に予算調整をお願いした。

(3) について

採材についてはサバ止め・有り尺とする。

伐採については、素材一本当たりの長さが10mを越えるものも採材されることから、伐倒時の割れや折れを防ぐため、根元の周囲を掘って根倒しすることとした。

搬出については、集材機で引き出すこととした。

(4) について

岐阜県へ伐採協議の手続きを行い承認を得るとともに、作業許可の承認も得た。

(5) について

販売方法については、販売価格がかなり高額になると予測されることと、久しぶりに出材される銘木であることから、支局の指導により、27年ぶりに岐阜県銘木協同組合で開催される「全国銘木展示大会」に販売委託材として出品することとした。

以上の問題点をクリアしながら収穫調査を実施し、9本37.55m³を収穫対象としました。(表-1)

(表-1) 立木調査野帳

樹種	生被	品質	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	本数 (本)	単材積 (m ³)	控除材積 (m ³)	材積 (m ³)
ケヤキ	生	正	80	27	1	5.02		5.02
〃	〃	〃	114	32	1	10.49		10.49
〃	〃	〃	44	30	1	1.93	0.13	1.80
〃	〃	〃	68	30	1	4.33	0.68	3.65
〃	〃	〃	70	30	1	4.53	0.36	4.17
〃	〃	〃	86	32	1	6.71	0.36	6.35
〃	〃	〃	36	15	1	0.68		0.68
〃	〃	〃	64	19	1	2.46		2.46
〃	〃	〃	74	18	1	2.93		2.93
計					9	39.08	1.53	37.55

生産請負契約相手方は(有)つち創工社で、以下の日程で事業実行を行ないました。

事業期間 平成7年9月26日～平成7年11月20日

事業着手 平成7年9月26日

搬入完了 平成7年11月10日

事業完了 平成7年11月14日

契約実行金額は 5,299千円でした。

3 結 果

- (1) 伐倒については、調査時点で分からなかった一本が空洞木であったため元割れとなった。
- (2) 集材については、一本最大素材材積 6.241m³を含め35.358m³を行うことができた。
- (3) 運材については、最長14mの長材を搬出することができた。
- (4) 銘木市には、12本31.938m³を販売委託し、総売上げ額は、33,002千円(税込みで33,992千円)

であった。(表-2)

最高単価は、6 m 48cm材で2,082千円/m³であった。

(表-2) 委 託 販 売 結 果

樹 種	長級 (m)	径級 (cm)	本数 (本)	材 積 (m ³)	単 価 (m ³ /円)	総 額 (円)
ケヤキ	10.0	76	1	6.214	1,400,000	8,737,400
〃	14.0	54	1	4.837	750,000	3,654,750
〃	12.4	46	1	3.100	600,000	1,860,000
〃	6.0	48	1	1.441	2,081,887	3,000,000
〃	11.2	54	1	3,703	950,000	3,517,850
〃	8.0	66	1	3.699	800,000	2,959,200
〃	4.2	78	1	2.555	1,200,000	3,066,000
〃	5.4	42	1	0.953	400,000	381,200
〃	4.2	26	1	0.284	20,000	5,680
〃	4.8	36	1	0.622	330,000	205,260
〃	4.2	90	1	3.402	1,400,000	4,762,800
〃	2.6	64	1	1.065	800,000	852,000
計			12	31.938	1,033,318	33,002,140
消費 税 加 算 額					1,064,318	33,992,204

今回は増収対策として、「宝マップの活用」に取り組みましたが、当署ではこれ以外にも「森林の市による根株等の販売」「崩落土砂・川砂利の販売」等、積極的に増収に取り組んでいます。収入の大宗を占める林産物販売についても、付加価値を高め、市況動向等の情報を的確に把握し、それにあつたものを随時生産できる体制で事業を行うことが、収入の確保と効率的な事業運営に資するものと考え、全署をあげて計画収入の確保に努力しています。



根倒されたケヤキ



集材中のケヤキ長材



長尺材の積込



セリを待つケヤキ